

ヤンバルクイナの道路出現状況に関する調査研究

(社) 沖縄建設弘済会 技術環境研究所 ○川上新

1. 目的

ヤンバルクイナはツル目クイナ科に属し、沖縄島北部の森林地域（やんばる）にのみ生息する固有種であり、国指定天然記念物、国内希少野生動植物種等に指定されている貴重種である。本種の生息は危機的状況にあり、その影響要因の一つである交通事故は近年増加傾向にある。このような状況を受け、当研究所では平成 20 年 4 月から国頭村安田区と協働で「ヤンバルクイナ等道路出現調査（以下、道路調査）」を行ってきた。

本研究は、平成 20 年度に実施したヤンバルクイナ等道路出現調査等の結果について取りまとめるとともに、今後のヤンバルクイナの交通事故防止に向けた調査研究について検討する。

2. 内容

道路調査は、国道 58 号線（0.0～6.6kp（キロポスト））、県道 70 号線（0.0～17.5kp）、県道 2 号線（0.0～16.3kp）の 3 区間について、平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 27 日にかけて、4 月から 6 月は毎日、7 月以降は週 2 回実施した。調査は日の出から約 3 時間程度、車両により調査区間を踏査し、ヤンバルクイナが確認された場合は、個体数、時刻、地点等について記録した。現地調査員は安田区住民より募集し、調査の指導およびデータ解析等については当会で実施した。

その他、補足調査としてヤンバルクイナ出現多発箇所における日の出から日没後の道路への出現調査（以下、定点調査）を平成 20 年 6 月から 3 月にかけて、月 1 回実施した。

3. 結論

道路調査については、165 回実施した結果、延べ 1320 個体のヤンバルクイナを確認した。調査区間別では、県道 70 号が 1095 個体と最も多く、ついで県道 2 号（196 個体）、国道 58 号（29 個体）の順であった。ヤンバルクイナの道路への出現は 4 月から 6 月にかけて増加し、7 月以降は徐々に減少したものの、冬季においても 10 個体前後確認される日があった。

定点調査の結果、延べ 116 個体のヤンバルクイナが確認され、6 月が最も多く（77 個体）、7 月以降は急速に減少した。日中における出現は、朝および夕方の 1～2 時間に集中していた。その他、道路に出現した個体は、採餌、羽づくろい、鳴き交わし、交尾等、多様な行動が確認され、道路を生活の一部として利用していることが示唆された。

4. 今後の問題点

今回の調査結果から、ヤンバルクイナの道路への出現状況については明らかになってきた。しかし、交通事故の発生要因である車両の状況や出現箇所および事故発生箇所などの環境条件等については不明な点が多い。今後は、これら車両状況や環境条件等に関する調査を行う必要がある。